

令和6年度 宿泊税を活用した主な事業

(1) 観光を通じた京都の魅力の継承・発展

事業費 8.8億円
(うち宿泊税 5.4億円)

市民生活と調和した持続可能な観光促進 に向けた海外プロモーション強化事業



(実績)

海外有力メディアを対象として、観光課題対策や京都観光モラル等の報道等につなげるための働きかけを行うとともに、海外インフルエンサーの発信力を活用し、とておきエリア等の情報発信を行った。

京都への修学旅行の誘致促進 (修学旅行 1 dayチケット)



(実績)

京都への修学旅行誘致と市バス・地下鉄の旅客誘致を一体的に行うこと目的に発売する修学旅行生を対象とした1日乗車券。

令和6年度発売実績

京都修学旅行 1 dayチケット 222,653枚
京都修学旅行 1 dayチケット【京阪電車拡大版】 55,004枚

分散化の推進と観光の満足度向上のため の朝・夜観光等コンテンツ造成事業



(実績)

朝や夜の時間帯でしか体験できない観光コンテンツを活かした観光プランの造成・PRを行った。また、ノウハウや人出不足等により観光コンテンツの提供の実績がない事業者等に対してコンテンツ造成に向けた伴走支援を行った。

サステナブルMICE都市形成事業



(実績)

SDGsに資する活動を推進するMICE主催者に対して補助を行う「サステナブルなMICE開催支援補助制度」を運用し、市民公開講座の実施や環境に配慮した取組等を支援した。また、京都におけるMICE開催の魅力を効果的にPRするため、MICE商談会の開催及び出展を行った。

(1) 観光を通じた京都の魅力の継承・発展

京都総合観光案内所の運営



(実績)

府市協調により運営している京都総合観光案内所（京なび）において、観光・交通案内を多言語で実施した。また、パソコンやスマートフォン等で利用可能な「京なびオンライン」サービスにおいて、よくある質問サイト等による観光情報を発信した。

宿泊事業者の担い手確保等支援事業



(実績)

特設ウェブサイト「京都観光はたらくNavi」を活用し、宿泊業界等の経営者及び従業員へのインタビュー記事を掲載するなど、業界で働く魅力の発信や好事例の横展開を行うとともに、経営者や従事者向けの研修事業や事業者と学生との交流事業を実施した。

(2) 文化の力を活かした価値創造

事業費 65.3億円（うち宿泊税 6.0億円）

祇園祭・京都五山送り火等伝統行事助成



（実績）

京都に古くから伝わる伝統行事（祇園祭、京都五山送り火）を絶やさず未来へ引き継いでいくため、伝統行事の執行及び懸装品の新調等の保存修理事業に対し補助金を交付した。

市所有史跡等管理



（実績）

本市が所有又は管理団体となっている文化財（名勝雙ヶ岡、天然記念物深泥池生物群集、史跡樺原廃寺跡等）を良好に保存していくための環境整備や清掃等の維持管理を行った。

子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出



（実績）

感性豊かな子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会を創出し、次世代の文化芸術の「担い手」となる若者を育成することを目的に実施した。
令和6年度は、伝統的な文化芸術から現代芸術まで、幅広い分野にわたり、計66か所で実施し、約4,200人の子どもが参加した。

美術館運営



撮影：品川光司

（実績）

創建当時の姿を残す国内最古の公立美術館であり、多様なジャンルのアートを発信し続ける京都市美術館を運営。施設の維持管理、美術に関する調査及び教育普及活動、展覧会の開催等を実施した。

(3) 品格ある景観創造

事業費 12.3億円（うち宿泊税 7.5億円）

京町家保全・継承推進事業



（実績）

京都の街並み景観や生活文化の象徴である京町家を次世代へ引き継ぐため、所有者への支援などを実施した。

令和6年度の主な実績

指定京町家改修補助金 44件

個別指定京町家維持修繕補助金 8件

古都三山保全・再生事業



（実績）

「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」に基づき、森林景観の保全・再生及び斜面防災性の向上を目的とした林相改善を行う工事を令和7年度以降に実施することを予定している。令和6年度は当該工事の前段階に当たるものとして、植栽設計（毎木調査等）を実施した。

(4) 観光課題対策の着実な実施

事業費 123.6億円 (うち宿泊税 8.9億円)

観光地等における散乱ごみ対策



(実績)

ゴールデンウィークや祇園祭期間中などのハイシーズン期における街頭ごみ容器の収集回数増加への対応を行うとともに、市内の観光地を中心に設置している街頭ごみ容器（約300基）の維持管理を行った。

観光マナーをはじめとした観光課題対策に対する啓発事業



(実績)

「旅マ工」の段階から、日本政府観光局(JNTO)の海外事務所を通じて現地旅行会社へ、また、国内ツアーオペレーター事業者を通じて観光ガイドへ周知啓発を実施した。「旅ナ力」においては、市政広報版、地下鉄・市バス車内、関西国際空港リムジンバス車内での啓発、地下鉄京都駅等の駅構内デジタルサイネージ、SNS等での情報発信を実施した。

交通混雑緩和に向けた情報発信等の強化



(実績)

公共交通の混雑緩和のため、デジタル広告や大阪府内宿泊施設における情報発信により、「サブゲート（周辺駅）への分散化」を促したほか、京都駅前の臨時交通案内所を核とした地下鉄・観光特急バス等への案内誘導を行った。

各取組の相乗効果により、京都駅で目立った混雑は発生しなかった。

「観光特急バス」の利用促進に係るPR



(実績)

国の制度改正を活用した全国初の取組として、令和6年6月から、京都駅と東山エリアの観光スポットを結ぶ「観光特急バス」の運行を開始。

令和6年度の利用者数は、1日平均で約2,400人（1台当たりの定員を60名程度で換算すると、バス40台分に相当）。

観光特急バスの運行により、主に市民の皆様が利用される一般系統の混雑緩和に寄与。

(4) 観光課題対策の着実な実施

市バス運賃箱の更新の 「つり銭方式」への変更



(実績)

運賃箱の更新にあわせて「両替方式」から「つり銭方式」へ変更し、お客様の利便性向上や降車時間の短縮を図った。

スムーズに運賃をお支払いいただけるよう、様々な方法（ポスター、リーフレットなど）でPRを行った。

「観光効果の見える化・観光への市民共感」促進事業



(実績)

令和6年12月、新たに市民向けサイト「LINK!LINK!LINK!」を開設し、観光関連事業者が提供する割引等の市民限定サービスや、観光が京都にもたらす意義・効果、京都の魅力再発見につながる市民限定キャンペーン等の情報を発信した。

(5) 市民・観光客双方の利便性向上や安心安全に 繋がる都市基盤整備

事業費 850.4億円
(うち宿泊税 31.6億円)

無電柱化事業



整備後

整備後

整備後



整備後

整備後

※完成イメージ

(実績)

「都市防災機能の向上」「良好な都市景観の創造」「安全で快適な歩行空間確保」の観点から、河原町通や後院通などで無電柱化を推進

学校体育館防災機能強化等整備事業



(実績)

災害発生時に避難所としての活用が想定される市立学校の体育館について、防災機能強化に繋がる改修工事等を実施。

外断熱や遮熱高断熱複層ガラスの導入により館内温度の一定化を図り、太陽光発電やシャワーユニットの設置により通常時及び避難生活の長期化にも対応可能。

宿泊税課税・徴収経費

事業費 2.3億円 (うち宿泊税 2.3億円)

特別徴収義務者に対し事務経費の一部を支援する補助金（特別徴収事務補助金）を交付するほか、使途の見える化を含む市民・来訪者に向けた広報等を行った。

地下鉄の既存車両における 車内防犯カメラ設置



（監視）



烏丸線車両

東西線車両

(実績)

地下鉄車内のさらなる安全安心のため、今まで新型車両に設置していた防犯カメラを既存車両にも設置し、犯罪抑止に努める。

令和6年度は烏丸線既存車両1編成、東西線既存車両1編成に設置。

「民泊」対策事業



(実績)

市民等からの民泊に係る通報や相談を広く受け付ける「民泊通報・相談窓口」の運営や、宿泊施設の管理状況調査業務の一部について民間委託を活用しながら、年間4,000件を超える宿泊施設の調査を実施。地域住民と事業者の調和が確保されるよう取組を進めている。